

---

**特集：がん予防総合センター開設20周年記念**

---

**がん予防総合センターの現状と将来展望****Present Conditions and Future Prospects of  
Niigata Cancer Prevention Center**

成澤 林太郎

Rintaro NARISAWA

**要 旨**

がん予防総合センターは本県のがん予防対策の拠点として、平成10年9月4日に開設され、平成30年9月で満20年を迎えた。当センターは県立がんセンター新潟病院（以下、当院）に隣接して開設され、当院と一体で運営されている。設立の経緯から、事業主体は福祉保健部であるが、運営は病院局（実質的には当院）へ委託されている。当センターの役割は「二次精密検査の推進と一次検診の啓蒙によりがんの早期発見に寄与する」という目標に集約される。それを踏まえ、1) 精密検診を主としたがん二次検診、2) がんの一次予防の啓蒙、3) 地域がん登録、が当施設の事業の三本柱である。時代とともに、罹患するがんの臓器や種類が変わってくるのが予想されるため、それに迅速に対応できる将来構想が必要となってくる。二人にひとり「がん」に罹患し、三人にひとり「がん」で亡くなる時代に突入した現在、当センターの担う役割はますます大きくなってきている。

**はじめに**

がん予防総合センター（以下、センター）は、新潟県のがん予防対策の拠点として、平成10年（1998年）9月4日に開設され、平成30年（2018年）9月で開設20年を迎えた。センター長として、当センターの現状を報告するとともに、将来展望について述べる。

**1. センターの運営**

当センターは、新潟県立がんセンター新潟病院（以下、当院）に隣接して開設され、当院と一体で運営されている。設立の経緯から、事業主体は新潟県福祉保健部であるが、運営は新潟県病院局（実質的には当院）へ委託されている。したがって、当センターの医療機器の設備の更新や新設などは福祉保健部の予算で行われている。

**2. センターの役割**

当センターの役割は、「二次精密検査の推進と一次検診の啓蒙によりがんの早期発見に寄与する」という当センターの目標に集約されている。

ご存知のように、検診には表1のように対策型と任意型があるが、どちらの検診の二次検診対象者に対しても、当センターでは二次精密検査を行っている。

当センターは、二次精密検査を担っている医療機関のため、一次検診は行っていないが、一次検診の啓蒙も当センターの役割の一つである。そのため、毎年、市民公開講座を開催し、一次検診の啓蒙にも努めている。因みに、平成30年（2018年）9月8日（土）に開催した第22回市民公開講座は「がん予防総合センター開設20周年記念」として行われ、肺がん・胃がん・大腸がん・子宮がん・乳がんの五大がんの検診をメインテーマに取り上げた（図1）。

**3. センターの具体的な事業**

新潟県は胃がん、大腸がん、肺がん、乳がんなどの死亡率が高い国内有数の地域であるため、当センターは県民をがんから守るための役割を担い、具体的には、次の1)～3)を3つの柱として具体的な事業を行ってきた。

**1) 精密検診を主としたがん二次検診**

五大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、子宮がん、

表1 対策型がん検診と任意型がん検診

検診分類	対策型がん検診 (住民検診型)	任意型がん検診 (人間ドック型)
	Population-based screening	Opportunistic screening
基本条件	当該がんの死亡率を下げることを目的として、公共政策として行うがん検診	対策型がん検診以外のもの
検診対象者	検診対象として特定された集団構成員全員(一定の年齢範囲の住民など) ただし、無症状であること 症状があり、診療の対象となる者は該当しない	定義されない ただし、無症状であること 症状があり、診療の対象となる者は該当しない
検診方法	当該がんの死亡率減少効果が確立している方法を実施する	当該がんの死亡率減少効果が確立している方法が選択されることが望ましい
利益と不利益	利益と不利益のバランスを考慮する 利益が不利益を上回り、不利益を最小化する	検診提供者が適切な情報を提供したうえで、個人のレベルで判断する
具体例	健康増進事業による市区町村の住民対象のがん検診(特定の検診施設や検診車による集団方式と、検診実施主体が認定した個別の医療機関で実施する個別方式がある)	検診機関や医療機関で行う人間ドックや総合健診 保険者が福利厚生を目的として提供する人間ドック

出典：国立がん研究センターHP

乳がん)の精密検診を行っている(勿論、当院の本院では、各診療科で、五大がん以外のがんの二次精密検査も行っている)。当センターでは、胃がん・大腸がん検診の二次精密検査としての上部消化管や大腸の内視鏡検査、肺がん検診の二次精密検査としての胸部ヘリカルCT検査、乳がん検診の二次精密検査としてのマンモグラフィーおよび超音波検査などを行っている。

事前予約制を取っており、予約日に上部消化管内視鏡検査、胸部CT検査、マンモグラフィー・乳腺超音波検査、必要に応じ針生検が受けられるようになっている。

## 2) がんの一次予防の啓蒙

一次予防は「がんになる人を減らす」ことである。端的に言うと、がんの要因となる原因を断つことである。具体的な要因は、喫煙(受動喫煙を含む)、感染(肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルスなど)、過多の飲酒、過多の塩分摂取、肥満、野菜摂取不足、果物摂取不足、運動不足などである。当センター1階のフロアーには、がんを予防するための食事に関するポスター掲示などが行われている。

一次予防のための生活習慣の改善についても、市民公開講座などを通じて広報活動を行っている。また、がん検診やがん知識の普及のために、地域コミュニティセンターなどにおける講演や医療相談もお引き受けしている。

一方、二次予防は、検診や健診などを受けることにより早期発見・早期治療に努め、「がんから治る

人を増やす」ことである。

## 3) 地域がん登録

新潟県内のがんの実態を把握することは、本県のがん対策を効果的に推進し、県民の健康水準の向上に寄与すると考えられることから、県内の各種がんの罹患状況や治療状況などの登録が行われているが、それが地域がん登録である。

本県のがん登録は平成3年(1991年)4月から始まった。「健康増進法」に基づき、本県のがん登録は県福祉保健部が実施主体となっているが、情報収集業務を新潟県健康づくり財団に、登録業務を県病院局にそれぞれ委託して行われている。その病院局は、登録業務を行うがん登録室を当センター内に設置している。

集計されたがん登録データは、がん罹患率の推計、がん患者の受診状況の把握、がん患者の生存率の推計、罹患の地域別状況の分析、疫学研究への利用などの目的にも活用され、地域医療水準の向上や市町村の保健活動に役立てられている。

県内の医療機関のご協力により新潟県のがん登録の精度は、全国でもトップクラスを誇っているが、それは県内の医療機関ならびにがん登録室の業務に携わる関係者の努力の賜物と考えている。この場を借りて、心から感謝申し上げる。

平成27年(2015年)3月31日に発刊された「胃がん検診ガイドラインの改訂」で、新たに内視鏡検診が推奨されることになったが、その根拠となった内視鏡検診受診者の死亡率減少効果の科学的な証明

## 新潟県立がんセンター新潟病院 がん予防総合センター開設20周年記念 第22回市民公開講座

**日時** ▶ 平成30年9月8日(土) 13:30～16:10

**会場** ▶ だいしホール(新潟市中央区東堀前7番町)

**13:30～13:50 基調講演**  
 演題名:「がん予防総合センターの20年を振り返って」  
 演者: 成澤林太郎(がん予防総合センター長)

**13:50～14:30 リレー講座**  
 テーマ:「検診を受ける・受けなくて何が違うの?(5大がん)」  
 演者: 肺がん: 田中 洋史(呼吸器内科)  
 胃がん: 成澤林太郎(消化器内科)  
 大腸がん: 船越 和博(前当院、現県立中央病院消化器内科)  
 子宮がん: 菊池 朗(婦人科)  
 乳がん: 神林智寿子(乳腺外科)

**14:40～15:10 質問コーナー**  
 「がん検診・がん診療に関するQ&A」

**15:10～16:10 特別講演**  
 演題名:「健診・検診は、自分を知る大きなチャンス」  
 演者: 加藤 公則 先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科  
 生活習慣病予防検査医学講座 特任教授)

**プログラム** ▶

質問コーナーでは事前に「がん検診・がん診療に関する質問」を受け付けます  
 ご質問のある方は、事前に、封書、FAX、ないしはメールで質問をお送り下さい  
 〒951-8566 新潟市中央区川岸町2丁目15番地3 新潟県立がんセンター新潟病院 庶務係 宛  
 TEL: 025-266-5111 FAX: 025-266-5112  
 メール: 当院ホームページ「<http://www.niigata-cc.jp/>」のトップページの最下段にある「お問い合わせ」からお入り下さい





図1 第22回市民公開講座

に、本県のがん登録のデータが活用されたことは記憶に新しい。

なお、平成28年(2016年)1月1日のがん登録等の推進に関する法律が施行されたことにより、それ以降は国立がん研究センターが全国的にがん登録の業務を行うこととなり、本県のがん登録室は全国がん登録システムの下で、登録作業を続けることとなった。

#### 4) その地

前述の3つの柱以外にも、当センターでは以下のようなことを行っている。

##### ①がんドック

一般の日帰りドックとは別に、専門ながん検診として「がんドック」を開設している。Aコース(胃・肺・乳・子宮)とBコース(胃・肺)があるが、両コースとも消化管内視鏡検査や胸部CT検査などが割安で受けられるようになっている。

##### ②検診従事者の研修

検診業務に従事される医師、技師、看護師などの勉強や技術力の向上のための講習と実地研修の場として活用され、実習や見学もお引き受けしている。

##### ③多地点TV会議

全国のがんセンターや成人病センターを結んで同時中継し会議討論ができるネットワークシステムが導入されている。定期的な多地点合同メディカルカンファレンスが各分野で行われ、画像診断、ミニレクチャー、セミナーなどがリアルタイムで実施され、院内だけでなく院外の方々にも公開している。

#### 4. センターの構成

当センターは3階建てであり、各フロアは以下のような構成になっている。

1階：待合室，受付（事務室），臨床・病理検査室，外来食堂  
 2階：内視鏡室，乳腺外来，内科外来，CT撮影室，乳房撮影室  
 3階：地域がん登録室，研修室，ネットワーク室  
 当センターの乳腺外来は乳がん，内科外来は胃がん・食道がん，肺がんを主たる対象疾患として，事前予約制を取り，予約日に二次精密検査ができるような体制となっている。

また，内視鏡室はセンター開設とともに，本院の中央内視鏡室から当センターに移り，現在は，気管支鏡検査を除く，上部消化管内視鏡検査，大腸内視鏡検査，超音波内視鏡検査，内視鏡的逆行性膵管胆道造影(ERCP)などの内視鏡検査を行っている。なお，当センターで行った二次精密検査で診断が確定した検診発見早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)などの内視鏡治療も内視鏡室で行っており，二次検診事業と内視鏡治療を組み合わせた効率のよい診療体制になっている。

なお，21年間の当センターの二次精密検査機関としての診療実績を表2に示す。時代の流れとともに，医療ならびに当院を取り巻く環境は変化してきているが，当センターの診療実績にもそれが表れていると思われる。

## 5. センター開設20周年記念事業

当センター開設20周年記念事業として，以下の二つの事業を行った。

- 1) 市民公開講座(図1)
- 2) 本誌におけるセンター開設20周年記念の特集

## 6. 将来展望

時代が変わっても，①精密検診を主としたがん二次検診，②がんの一次予防の啓蒙，③地域がん登録

の3つが，当センターの大きな柱であることに変わりが無い。しかしながら，時代とともに，罹患するがんの臓器や種類が変わってくるのが予想されるため，それに迅速に対応できる将来構想が必要となってくる。

早期発見・早期治療の重要性の浸透により，乳がんが代表されるように罹患率は高いが死亡率は低いがんも増えてきているが，それに満足せず，もっと検診の啓蒙を行うとともに，一次・二次検診のレベル向上を図ることが大切である。一方，罹患数と死亡数がほぼ拮抗するがんがあるのも事実である。その代表が膵がんであるが，膵がんの早期発見につながる検診システムの確立は検診に係る者にとって大きな課題である。

また，「がんになる人を減らす」ための一次予防がますます叫ばれる時代になるはずである。実際，かなりのがんが生活習慣などを改善することにより予防できることがわかってきている。当センターも今以上に啓蒙活動を行う必要がある。現在は，Social Networking Service (SNS) 全盛時代であり，SNSを利用した啓蒙も大切であるが，それとともに，積極的に地域に出かけ，きめ細やかな生活習慣改善の指導や医療相談を対面で行う草の根活動も大切である。

## おわりに

高齢化などの影響で，今や日本国民の二人にひとり「がん」に罹患し，三人にひとり「がん」で亡くなる時代に突入している。そのような時代であるがゆえに，ますます当センターの担う役割は大きくなってきている。

2019年で平成も幕を閉じる。新しい元号を迎えるにあたり，当院でがん医療に携わるわれわれは当センターの役割の大きさを再認識する必要がある。

表2 二次検診の21年間の実績(平成10-30年度)

	*H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	*H30
内科受診者数	1,118	2,244	2,443	2,677	2,569	3,447	3,560	2,913	2,511	3,994	3,480	3,243	3,267	3,055	2,979	3,276	1,782	2,331	2,132	1,897	1,253
外科受診者数	420	1,425	1,477	1,703	1,901	4,945	7,026	6,474	6,464	5,553	4,519	4,107	4,264	3,616	3,129	2,925	2,572	3,327	3,765	3,529	3,150
婦人科受診者数	137	311	242	149	218	296	316	353	282	295	291	335	544	440	518	501	260	375	298	281	240
上部消化管内視鏡検査件数	680	1,288	840	779	722	767	687	672	546	915	704	616	656	563	606	640	549	707	621	607	499
大腸内視鏡検査件数	113	444	776	907	1,013	1,154	1,116	984	720	1,058	966	906	889	927	890	1,045	970	910	726	747	600
胸部CT検査件数	241	445	522	615	454	467	543	405	587	580	518	515	525	374	298	300	270	326	354	315	290
乳房造影件数	7	1,398	1,262	1,488	1,648	3,159	4,068	3,699	3,636	2,958	2,139	2,121	2,083	1,679	1,462	1,345	1,214	1,872	2,033	1,762	1,433

\*：平成10年度は9月から7ヵ月間，平成30年度は31年1月までの10ヵ月間の集計